

# 美的経験と心的状態

太田陽 (Akira OTA)

名古屋大学大学院情報科学研究科博士課程

本発表では、芸術作品の鑑賞を典型例とするような美的経験を、何らかの心的状態によって特徴づけることができるのかどうか、検討する。従来の分析美学の議論では、無関心的な快の感情・直接的な知覚による認識・経験それ自体への評価といった、何らかの心的状態に訴えて美的経験を特徴づけようとする立場（ここでは、心的状態説と呼ぶ）がある一方で、独特な経験の内容によって、美的経験を特徴づけようとする立場（内容志向説）がある。内容志向説では、芸術作品のもつ形式的性質・美的性質・表出的性質などにたいする注意を伴う経験は、美的経験であるとみなされる。本発表では、心的状態説の一例として Jesse Prinz による情動にもとづく美的経験の説明を取り上げる。Prinz は、美的経験は芸術作品および私たちが芸術作品であると解釈するものへと再較正された (re-calibrated) 驚嘆 (wonder) の情動によって構成されている、と主張しているが、内容志向説を支持する Noël Carroll はこの立場を批判している。本発表では、Carroll による批判から Prinz の立場を擁護し、美的経験を特徴づける独特な心的状態が存在することを主張する。